

## 事業報告書

事業名 令和7年度信州大学経法学部出前講座  
日 時 令和7年9月12日(金) 13:00~15:00  
実 施 社会事業部（堀内副会長、平林部長、松澤理事、黒川理事）

昨年に引き続き、信州大学松本キャンパスにて実施しました。総合法律学科の「契約法務実習」という履修科目の1コマとして開催され、3年生の学生8名（女子6名、男子2名）、担当の金井悠一郎先生にご参加いただきました。

この「契約法務実習」では、弁護士を講師に迎え、不動産の契約法務のロールプレイングを毎回おこなっているそうです。具体的には、学生たちは、ある会社の社員で、会社の隣接地が売りに出されたようである。社屋拡張のために土地の購入を検討し、必要な手続きを進めていく。契約、手付の支払い、地積測量図の確認、登記申請等を体験。大変面白そうな授業に思われます。その中の一つとして今回の土地家屋調査士の授業が組み込まれているとのことでした。

当日は少しずつ天気が悪化していく予報であった為、当初の計画を変更し、①講義室で堀内副会長の開講挨拶・趣旨説明、②外に出て測量実習、③講義室へ戻り松澤理事の座学、という順番で実施しました。

まず堀内副会長より、自身も信州大学経済学部（今の経法学部）の卒業生であることを報告、土地家屋調査士のおこなう測量は境界確認、登記申請を目的とする法律行為の一環であるため、皆さんが学んでいる契約法務に深くかかわるものであることを説明し、測量実習へ移りました。

実習では昨年と同様にGNSSとトータルステーション（TS）を用い、事前に作成した測量図の境界点復元を体験してもらいました。小雨模様だったので、TSの上部にはテントを張り実施しました。TS操作者から「〇メートル〇センチ後ろ！」との指示に対し、スッと近づける勘のいい学生もいましたが、割と皆さん四苦八苦な感じ。GNSSでは黒川理事からの衛星の状況の説明に「おお〜」という感嘆の声をあげ、機器からの数字と電子音の指示を頼りに復元点にたどり着き、その精度の説明を受けると、皆さん一様に感心した様子をみせていました。どちらの機器にも興味を示し、楽しそうに体験してくれている学生たちの姿がとても印象的で非常に嬉しくなりました。

約1時間の測量実習のあと、再び講義室へと戻り松澤理事による座学が行われました。土地家屋調査士の業務内容、土地・建物の登記の種類の説明につづき、土地家屋調査士試験、他の職種を経験してから調査士になる人も多いことなど調査士の入口について紹介。その後、測量とはどういうことか、位置を他人に説明するには文章よりも、起点を定め、そこから数値をもって表現する方が分かりやすいことなど、学生の腑に落ちやすい説明だったと思います。最後に社会インフラの根幹を支える調査士業務の社会貢献度の高さを伝え、松澤理

事の講義は終了となりました。講義の間、学生たちは真剣な様子で説明に聞き入り、一生懸命メモを取っている姿に、ここでも感心を覚えずにはいられませんでした。

講義終了後、平林部長より広報グッズ（マンガ「土地家屋調査士成長物語」、クリアファイル、付箋）の紹介、配布をし、アンケートのお願いを伝達。

最後に堀内副会長が閉講挨拶として、自分の学生時代から土地家屋調査士になるまでの経緯を紹介し、金井先生、学生の皆さんに謝意を伝え、すべて終了となりました。

どの学生も非常に印象がすばらしく、我々も大変充実した気持ちで終えることができました。現在3年生の皆さんの将来に幸多いことを祈らずには居られませんし、きっとそうであらうと確信しています。

今年もこのような貴重な場を設けてくださった信州大学経法学部の栗田先生、金井先生に深く感謝申し上げます。

広報部・社会事業部担当副会長 堀内